

八代市男女共同参画推進情報誌

Mi★Rai

みらい

男女が共に生き生きと暮らせる社会づくりを目指して

第4号



いっそDEフェスタ2008より

「いっそDEフェスタ」は毎年いろいろな形で、男女共同参画を周知、啓発しています。

今年度は、八代市男女共同参画社会づくりネットワーク（八代みらいネット）が企画立案の段階から行政と共に取り組みました。いろいろな角度から男女共同参画を考えようと構成団体がそれぞれ工夫し、アイデアを出し合いました。

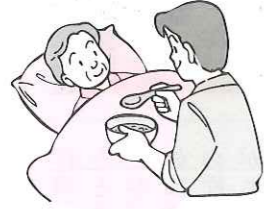
今回は男性対象のワークショップも多く、たくさんの方で賑わう楽しいイベントになりました。

四面には「お父さんの料理教室」で好評だったレシピを紹介しています。

CONTENTS

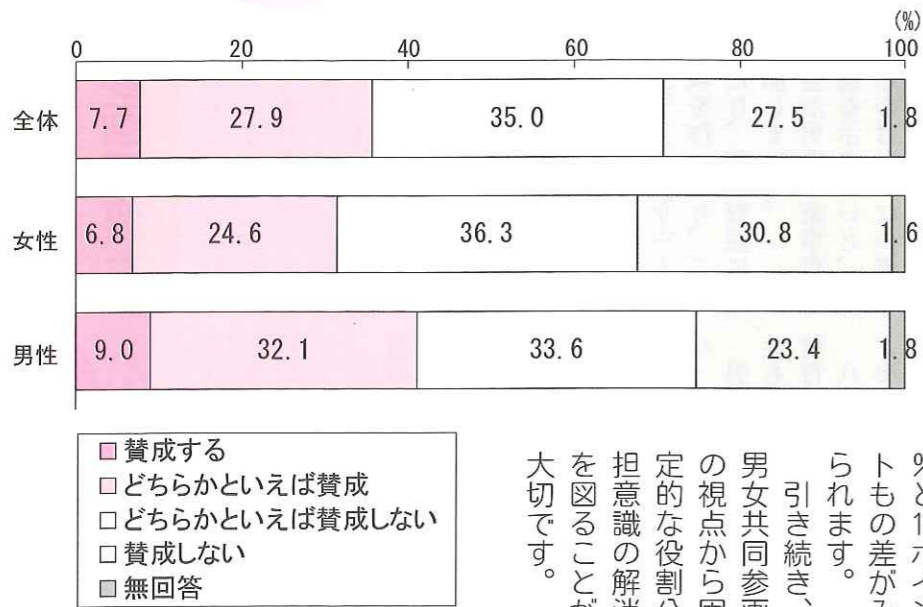
- ・八代市男女共同参画
市民意識調査
- ・いっそDEフェスタ2008
- ・女性の社会参画

みなさんの男女共同参画意識は？



平成20年度に策定する新しい「八代市男女共同参画計画」にみなさんの意識・意見を反映するため、「男女共同参画に関する八代市民意識調査」を実施しました。この意識調査をとおして、いくつかの課題や特徴が見えてきました。これらを新しい計画づくりに生かしていきたいと考えています。調査結果の一部をご紹介します。

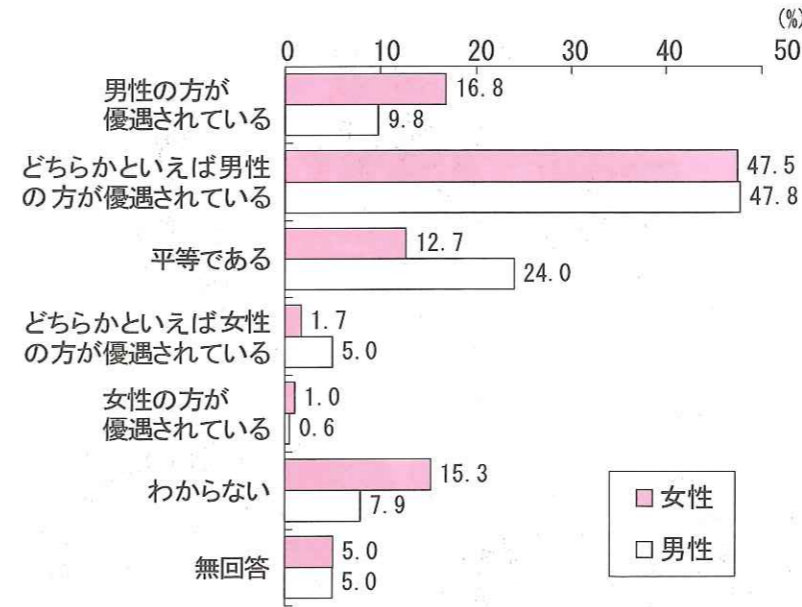
【調査概要】
 調査実施：平成19年4月27日～5月22日
 調査対象：市内に居住する満20歳以上の男女2,969人
 回収数(率)：1,242人(41.8%)



「男は仕事、女は家庭」というような、性別で役割を固定する考え方についてたずねたものです。「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」と答えた人は、減ってはきているものの、35・6%とまだまだ根深く残っています。男性別にみとみると女性は31・4%、男性は41・1%と10ポイントもの差がみられます。引き続き、男女共同参画の視点から固定的な役割分担意識の解消を図ることが大切です。

2 男女の役割分担

「男だから女だからでなく、その人らしく」

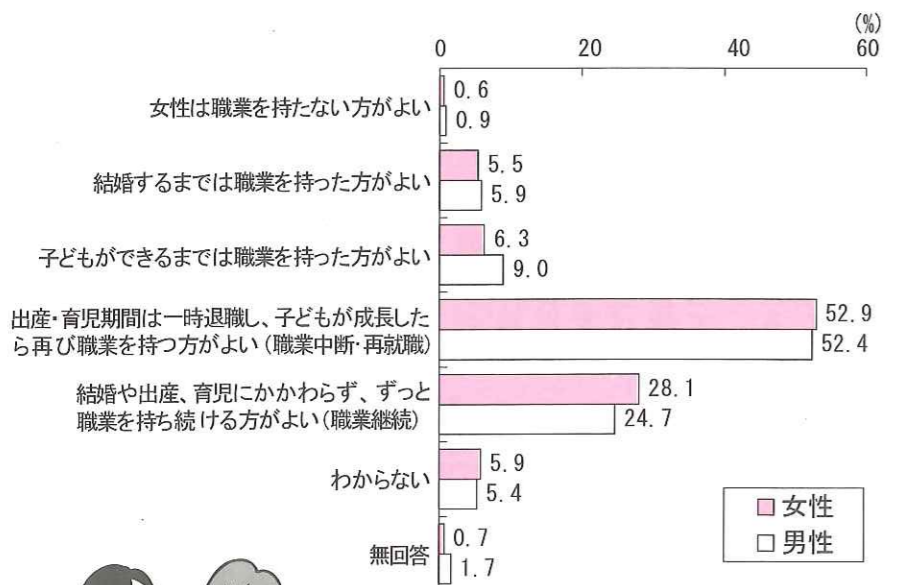


男女の地位についてたずねたものです。全体的に男女の平等感を見た場合「平等である」と答えた人は、男性が多く、女性との差は11ポイントという大きなものとなっています。また、「男性の方が優遇されている」「どちらかといえば男性が優遇されている」と感じている人が約60%あり、男女ともに男性優遇の社会であると考えていることがわかります。

さらに分野別(※)で男女平等感をみてみると、男性は法律や制度など形式的な面での男女平等をとらえがちであるのに対して、女性は生活や社会通念、慣習における事実上の男女平等を考えていることがうかがえます。

1 男女の平等感

「まだまだ、男性優位」



女性が職業を持つことについてたずねたものです。「職業中断・再就職」型が半数をしめ「職業継続」型が次に多くなっています。市民調査では「職業中断・再就職」型は全体では52・7%となっており、県民調査の42・6%と比べ、八代市民のほうが高くなっているのが特徴です。働き続けることができるためには、子育てに関する法の整備、サービスの充実、企業の支援などはもちろんのことですが、男性が家事・育児・介護に積極的に関わる意識改革や仕事中心の働き方を見直すことが大切です。

3 女性の就業観

「女性の意識改革と働き方の見直し」が大切

※ 分野別
 「学校教育の場」、「家庭生活」、「職場」、「地域活動、社会の場」、「政治の場」、「法律や制度」、「社会通念・慣習等」の7つの分野で、男女の地位について調査しました。

コラム：子どもの進学（性別による固定的役割分担意識の事例）

性別	中学校 (%)	高校 (%)	専門学校 (%)	短大・高専 (%)	大学かそれ以上 (%)	わからない (%)	無回答 (%)
女の子ども	0.4	9.9	20.9	19.0	38.5	7.7	3.6
男の子ども	0.5	8.1	11.6	10.3	59.3	8.0	2.3

子どもの進学目標をどの程度に置くのが望ましいかという問いでは、「大学かそれ以上」を見ると、男の子どもと女の子どもでは、21ポイントの大きな違いが出ており、女の子どもの大学以上の進学に消極的なことがうかがわれます。性別による固定的な役割分担意識に基づいた男女の不平等がここでも見られます。



「モツちゃんの男女共同参画講座」



KKTアナウンサー本橋馨さんが自身の体験を織り交ぜながら、軽妙なトークを繰り広げた。

PTAの夏休みキャンプでのこと。親父の会主催でありながら、実際に動くのは母親だけで、父親は飲み会だけの参加だった。母親からは「もう参加しない」と不評だったため、翌年から、子どもの相手や食事などを父親で担当することにしました。もちろん、母親も協力的で、多くの人が参加するキャンプになっている。

女性の社会参画

八代市では、20年度「男女共同参画計画」を策定します。八代市の課題や市民ニーズを反映した計画とするため、一月から三月まで課題別市民ワークショップが開かれました。「女性の社会参画」は大きな課題の一つです。

市民意識調査結果からも固定的性別役割分担意識に反対する人の割合は多くなっているものの、実質的には「男は仕事、女は家庭」という役割分担意識が依然根強くあり、女性の社会参画を阻む要因となっています。

男女の働き方の見直しや女性も活躍できる場づくり・人材育成が求められます。八代市では、ステップアップセミナーをはじめ様々な啓発事業に取り組んでいます。

職場や社会が男性の家事育児参加に理解を示さないと、状況を変えるのはなかなか難しい。

「ステップアップセミナー」のすすめ

毎年、女性を対象に知識・意欲を高め、力をつけて、積極的に行動につなげていくための、セミナーが開催されています。内容は、政治参画・産業・福祉・教育・行政改革・まちづくりなど多岐にわたっています。

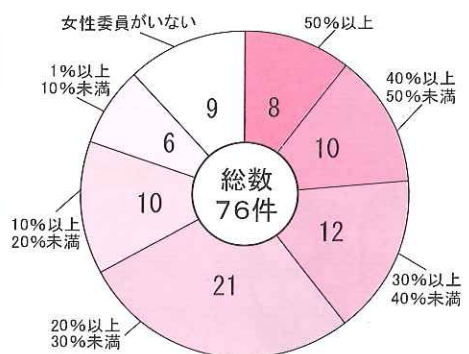
今まで受講した中から多くの方が、次世代育成支援行動計画策定・評価委員会、特別職報酬等審議会、政治倫理審査会、男女共同参画審議会、公共下水道事業審議会、消費生活懇談会などで活躍されています。

しかし、グラフでも分かるように、審議会等への女性の登用状況は、6割以上が30%未満で、女性のいない会もあります。

女性が積極的になり、意見を述べる事は審議の幅を広めます。いろいろな場面で広く参画できる女性になるため、このセミナーを利用してみませんか。

市の行革アクションプランでは、国同様平成二十二年度までに33.3%を目標としています。現在はまだ、24.6%にとどまっています。

審議会等への女性の登用状況



編集後記

「お久しぶり」で始まった編集会議。二年ぶりの会議に張り切っていたが、五人ともなかなか感覚が元に戻らない。しかし、「内容」「紙面割り」「原稿」……と進むにつれて調子も上がってきた。読みやすく分かりやすい紙面を目指して一行の文章にも妥協せず考え込む。忌憚のない意見が交わされる。いつもの編集会議になって無事終了。これからいろいろな催しに参加して情報収集に励もう。

編集スタッフ

- 賀久小夜子・可徳 陽子
- 古閑 啓子・穂波 敬子
- 増田 真弓